

(仮称)野村スポーツゾーン整備基本構想(案)
概 要 版

はじめに

近年我が国においては、社会情勢の変化に伴い、余暇時間の増加やライフスタイルの多様化、さらには高齢化社会での健康志向の高まりなどにより、スポーツ・レクリエーションへの関心や参加意識が高まっている。

そのため、本市では、「第5次草津市総合計画第2期基本計画（計画期間：平成25年度～平成28年度）」において、市民が心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、誰もが自分の健康状態や年齢、体力に合わせたスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めることを重要施策の1つに位置付けている。

また、「草津市スポーツ振興計画（計画期間：平成23年度～平成32年度）」においても、スポーツの持つ可能性を探求し、誰もが生涯にわたって、それぞれのニーズに応じて、スポーツと関わり、「スポーツ大好き！」「くさつ大好き！」と思える、健康的で、人とのふれあいやつながりのある豊かなまちとスポーツライフを創造することを基本理念としている。

一方、草津市民のスポーツ・レクリエーションの活動拠点の一つである野村運動公園は、グラウンドと市民体育館、テニスコートで構成されており、『ALLくさつのスポーツ振興』を支える市民の日常生活に根付いた地域密着型の施設として機能している。しかしながら、市民体育館は、耐震補強または建替えが必要な状況となっている。

また、現在策定中の「草津市中心市街地活性化基本計画」では、基本理念「‘元気’と‘うるおい’のある生活交流都市の創造」を達成するための方針として、「まちの強みをいかし、拠点形成とそのネットワーク化を図る」ことを掲げており、野村運動公園周辺を『立地を活かした集客拠点整備』・『草津川跡地の整備』等に取り組む活性化拠点として位置付けている。さらに、平成24年度に策定した「草津川跡地利用基本計画」では、空間目標「時の流れを見つめる場を提供し、心身が癒され 生きる力が得られる場」として野村運動公園との一体的土地利用を目指すことが計画されている。

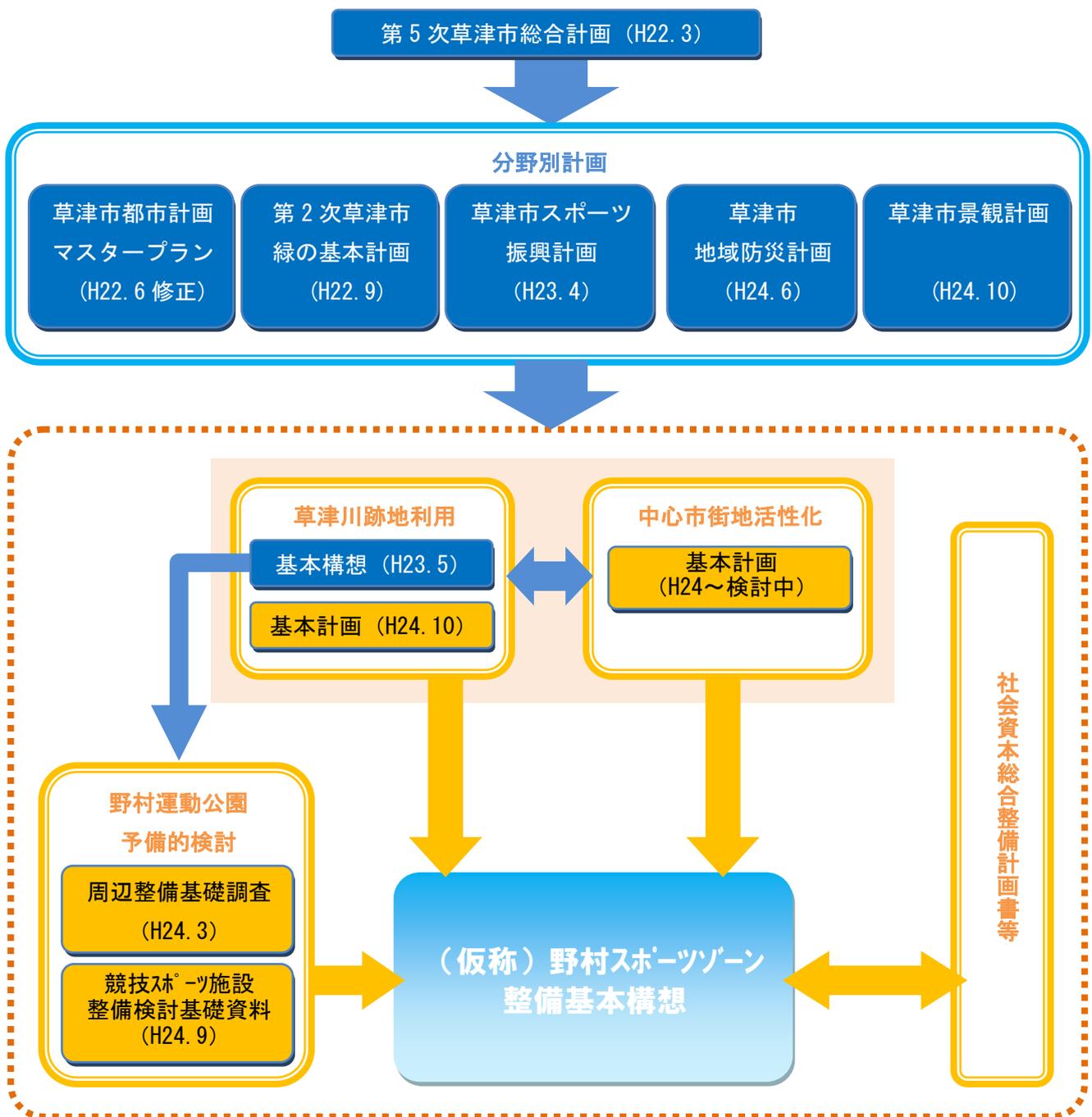
これらのことから、野村運動公園および草津川跡地を含む（仮称）野村スポーツゾーンにおいて、現状のスポーツ活動メニューや利用環境を確保することを前提に、より豊かな草津市民のスポーツライフと、新たなにぎわいを創出する施設として整備することを目標とし、今後の整備に向けた基本的な考え方などを基本構想として取りまとめることとした。

この基本構想の検討に当たっては、幅広い観点から検討を行い、さまざまな意見を反映させるため、（仮称）野村スポーツゾーン整備基本構想検討委員会を設置し、市民ニーズをしっかりと捉えた構想案となるように努めた。

1. 上位計画との関連

第5次草津市総合計画と草津市スポーツ振興計画を中心とする各分野別計画を踏まえ、中心市街地活性化基本計画や草津川跡地利用基本計画の理念や目標を実現するため、(仮称)野村スポーツゾーン整備基本構想を策定する。

また、平成23年度に実施した野村運動公園周辺整備基礎調査等を踏まえて、草津市の中心的な施設となるよう検討を進めるものとする。

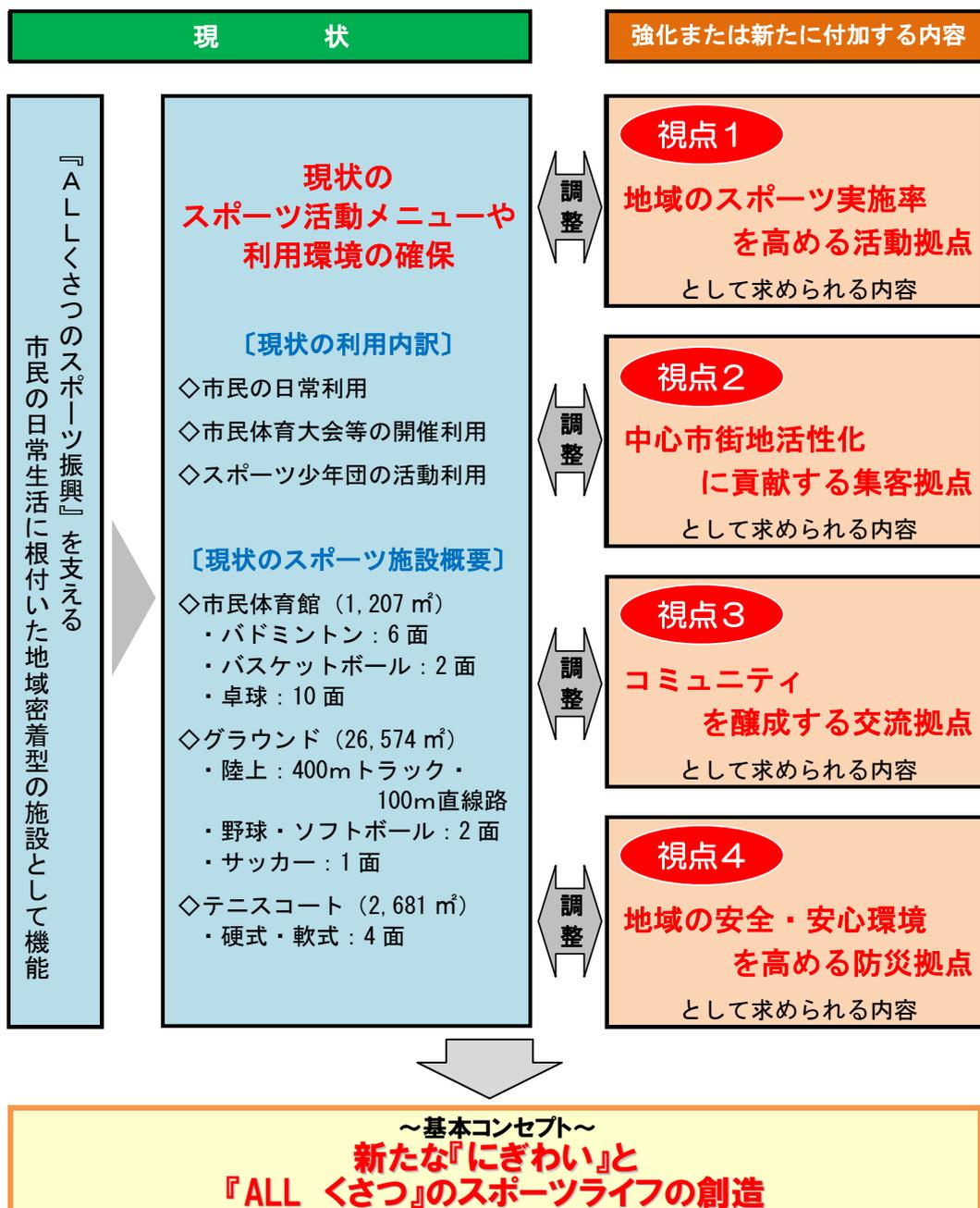


2. 基本構想対象エリアと運動公園の現況

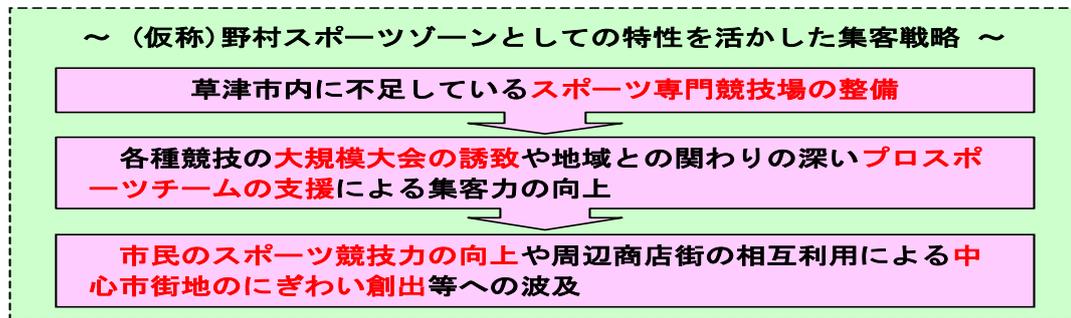


(仮称)野村スポーツゾーンは、JR草津駅から西側約500mに位置する都市計画決定された『野村少年運動公園』に体育館敷地・駐車場ならびに隣接する草津川跡地を含めた約8haの区域である。野村運動公園は、草津市民のスポーツ活動拠点として機能しており、また、草津市地域防災計画の広域避難所と位置付けられている。なお、市民体育館は、劣化度調査結果(平成21年度実施)では耐震補強または建替えが必要な状況となっている。

3. (仮称)野村スポーツゾーン整備の基本方針



集客戦略に基づく「スポーツ専門競技場」を整備する場合には、物理的な制約や既存機能の確保に対する影響、都市公園の要件に対する可否、集客の可能性等の得失を比較評価することが重要となり、その結果を踏まえ、基本方向として設定する。



～集客拠点としての施設整備の基本方向～

体育館：プロスポーツや全国規模の競技大会の開催、多彩なイベントなどにも対応できるレベルに機能拡充（観客数3,000人程度を確保）

グラウンド：状況に応じてサッカースタジアムなどに整備

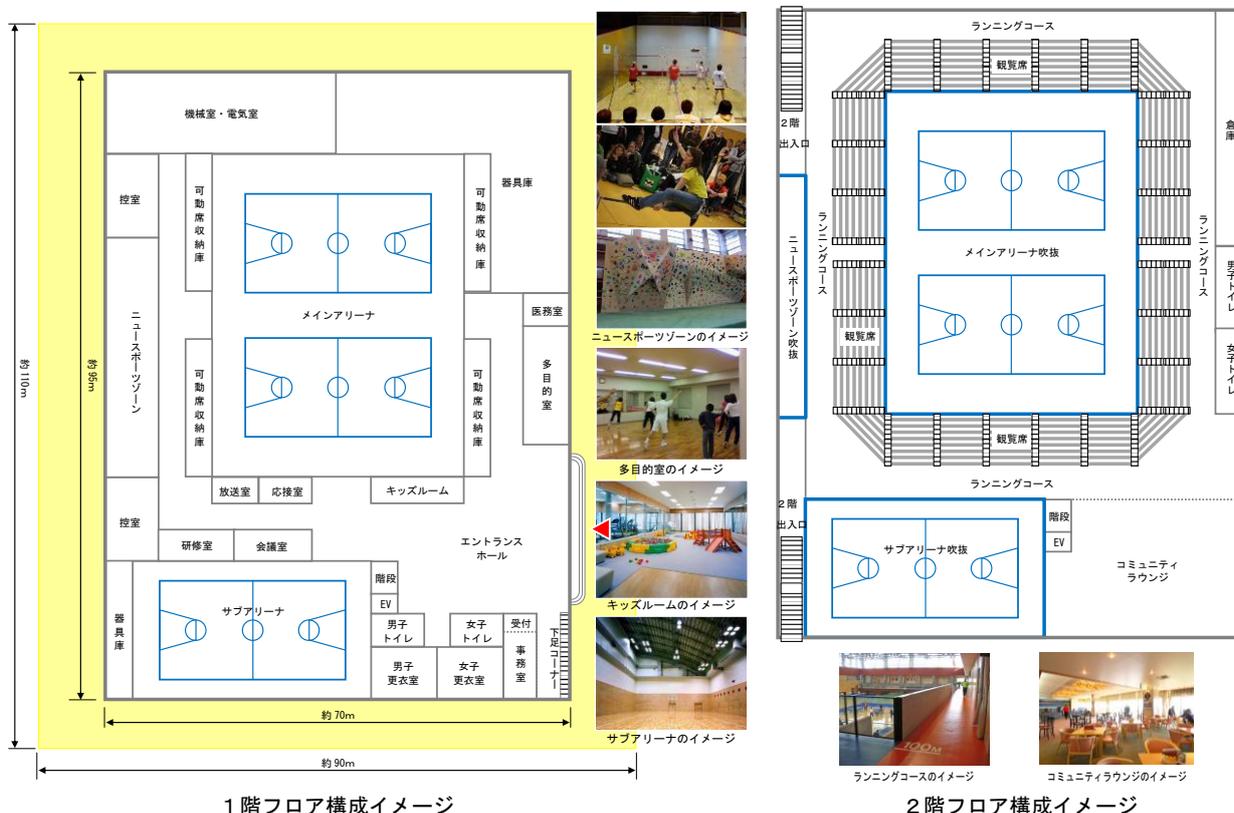
4. ゾーン内の空間構成の基本方針

【 **スポーツ系施設** 】 当面既存機能の維持を基本とした「多目的グラウンド」および「テニスコート」を確保する『屋外スポーツエリア』と、「新体育館」を建設する『屋内スポーツエリア』により構成する。新体育館は、草津市立総合体育館の設備・機能と同等以上、さらに集客性を備えたものとして整備する。また、草津市の中心的な体育館としての外観にも配慮した整備を行う。

【 **公園系施設** 】 「草津川跡地利用基本計画」において、(仮称)野村スポーツゾーンに隣接して計画されている公園機能との連続性の確保や重複の回避に配慮しつつ、スポーツを目的として本ゾーンに訪れる市民が、気軽に利用できる癒しの空間や子どもの遊び場などが求められているため、ゾーン内に遊具等を含めた公園施設を配置する。

5. 新体育館の整備方針

新体育館は、「新たな『にぎわい』と『ALL くさつ』のスポーツライフの創造」を牽引する重要な役割を担っており、総合体育館などの既存の施設との機能分担を図る必要がある。これを踏まえて、『**競技・イベント機能**』、『**交流・管理サービス機能**』の充実、ならびにこれらの機能充実を通じた広域避難所としての『**防災拠点機能**』の充実を図る。



【メインアリーナ】

大規模なスポーツ競技大会の開催への対応や日常的な一般のスポーツ利用への開放を図るために、バスケットボールコートで2～3面の設置が可能となる広さを基本として整備する。また、中心市街地活性化に貢献する集客拠点として、イベント等にも対応できる音響や照明、放送ブースなどの設備にも配慮した整備を行う。

競技種別	確保可能なコート数
フットサル	1コート
ハンドボール	1コート
バレーボール	3コート
硬式テニス	3コート
バドミントン	10コート
卓球	14コート

■メインアリーナで確保可能な各種競技のコート数

【観覧席】

観覧席の規模については、プロバスケットボールやバレーボールなどの公式戦開催等を参考にして**1・2階を合わせて最大で3,000席程度を確保**することを基本とする。1階部分の可動席としては最大で1,000席程度、2階の固定席は2,000席程度を確保する。

6. 周辺環境整備の検討

(仮称)野村スポーツゾーンとJR草津駅やその他の集客拠点とのネットワーク化を図ることが求められている。一方で、北側道路の交通量の増加が懸念される。また、堤防道路をゾーン南側に集約する計画になっており、周辺の道路との整合性をとる必要がある。以上のことから、「(仮称)野村スポーツゾーンへのアクセス性の向上」や、「周辺道路の交通安全性の向上」が周辺環境整備に対する課題であり、その対策として以下のことが考えられる。

◆周辺環境整備の対策の検討◆

■情報案内板等の整備

JR草津駅やその他の集客拠点との連携、回遊性の向上を目指し、アクセスルート上の交差点部等に情報案内板を設置する。

■北側道路に対する歩道の確保

北側道路における歩行者の安全性を確保するために、道路と一体となった緑化等を施した質の高い歩行空間を公園敷地内に確保することを検討する。

■北側道路におけるバス停の公園内への移動

北側道路の安全性や交通渋滞の解消、公園へのアクセス性の向上に配慮し、北側道路沿いにある野村運動公園口バス停を公園内へ移動させることを検討する。

■草津川跡地に隣接する南側道路の迂回

草津川跡地の堤防道路を集約し、大江霊仙寺線との交差点が新たに整備されることによって、交差点が連続することからその交差点処理を検討する。

7. 整備スケジュールの考え方

『草津川跡地利用基本計画』の中で、当該区間は平成28年度～平成32年度までの第2期事業として計画されており、草津川跡地部分は、平地化や道路の付け替えの後、早くも平成31年度以降でないと整備着手できない見込みである。また、現在のスポーツ機能（多目的グラウンド、テニスコート、体育館）を維持しながら、耐震性に問題がある体育館について早急に工事を行うことが求められている。

そのため、まず現在のスポーツ機能を維持しつつ、集客拠点の核施設となる新体育館の整備を優先的に行うこととする。



※ 現体育館は解体する。

※ 草津川跡地（暫定駐車場）については、テニスコートの移設や駐車場のスペースとして活用する。

8. 管理運営の考え方

方針①：利用効率と利便性が高い管理運営サービスの提供

方針②：市のスポーツ振興施策と連携した管理運営システムの構築

方針③：地域や各機関との連携を深める組織体制の構築

方針④：プロスポーツや興行系イベント等のマネジメント機能の確保

方針に基づく管理運営の実現に向けては、民間が有する経営上のノウハウや創意工夫を積極的に活用することが重要であり、従来の指定管理者制度だけでなく、より質の高い公共サービスの提供や集客拠点としての魅力的なマネジメントの実現に向けて、**施設の維持管理・運営面で民間のノウハウを活用することについても幅広く検討**する。